

埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース



ごあいさつ

副院長 篠塚 望

皆様こんにちは。埼玉医科大学病院副院長の篠塚望です。

連携施設の先生方におかれましては、日頃より大変お世話になっており深く感謝申し上げます。多くの患者さんをご紹介頂くと同時に、当院からの受け入れにもご協力頂きありがとうございます。

当院におきましては、今後地域連携施設とより強い連携を構築しなくてはならないと考えておりますが、当院自身の問題から御迷惑をおかけしている部分もあると認識しています。たとえばご紹介患者さんの報告書・診療情報提供書の徹底もそのひとつであり、このことは連携強化のはじめの一歩と考えています。初回報告はもとより、最終報告、長期入院患者の中間報告など、今後徹底した対策を施していく考えであります。また、紹介患者におきましては、できるだけ紹介医にもどす方向とし実践していきます。

さらに、急患患者の受け入れをアップさせることも大事なポイントであり、特に夜間時間外外来担当医と各科当直医の連携を強化し、断らない医療を実現したいと考えています。

至らない点も多くありますが、より強い連携を構築するため、今後とも忌憚のない御意見をお寄せ下さいますよう、ご指導の程宜しくお願い致します。

Contents

年頭のごあいさつ 2

最近の知見 3
女性ヘルスケアセンターから

診療科のご紹介 4
神経内科・脳卒中内科
麻酔科

新任医師のご紹介 5
耳鼻咽喉科
神経精神科・心療内科
病院長からのエール

病院機能評価 6

看護部から 7

地域医療連携室から
カルナ(インターネット予約システム)
の利用 8

利用者の声
中村産婦人科 8
小川赤十字病院 9



謹賀新年 本年もよろしくお祈いします。

今年の埼玉医科大学病院は、アレルギー疾患、てんかん、難病の連携拠点病院としても頑張ります。
病院長 織田 弘美

昨年末に病院機能評価受審を終え、レベルアップしました。本年もよろしくお祈い致します。

院長代理 三村 俊英

患者さんや家族と向き合い、頼りになる看護を目指します。

今年もどうぞよろしくお祈い致します。

副院長 鈴木 美香

地域の医療を守っていきけるよう、地域の皆様と一緒に全力で頑張ります。本年も宜しく御祈い致します。

副院長 中元 秀友

地域に密着した双方向性の連携強化に向けて、忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。今年もどうぞよろしくお祈い致します。

副院長 篠塚 望

安全・安心で高度な医療をお届けできるよう日々努力して参ります。

本年もどうぞよろしくお祈い申し上げます。

副院長 池園 哲郎

地域の周産期医療の拠点病院として、多様なご要望にお応えできる設備と人員を揃えお待ちしております。

院長補佐 亀井 良政

子どもたちが安全で、より良い医療を提供できるよう本年も微力を尽くします。

院長補佐 徳山 研一

High Quality Teaching General Hospitalの理念に根差し、ことわらない医療を継続します。本年もよろしくお祈い申し上げます。

院長補佐 市岡 滋

新年おめでとうございます。今年も頭のケガ、手や顔の震え、顔の痛み、てんかん、日本一のレベルの脳外科が担当します。

院長補佐 藤巻 高光

整形外科・脊椎外科では、地域の患者さんの機能回復を目指し安全で安心できる高度医療に力を尽くします。

院長補佐 鳥尾 哲矢



最近の知見：「女性ヘルスケア」という考え方

女性ヘルスケア外来とは、主に中高年女性の健康問題を、診療科の境界を超えて扱う外来です。



■更年期医学から女性医学へ・更年期外来から女性ヘルスケア外来へ

女性は閉経を契機に身体の状態が変化し、特有の健康問題が発生するため、男性とは違うヘルスケアが必要です。産婦人科は閉経前後のホットフラッシュ（急激なほてり）など、更年期障害を扱ってきました。寿命の伸びに伴い、もっと先を見据えて全人的なケアをすることになり、今では更年期医学ではなく「女性医学」という考え方をします。

■毛呂山に高年女性の理想郷を

閉経後の女性では、高血圧・糖尿病・脂質異常症・慢性腎不全・骨粗鬆症などが急増するため、「健康で長生き」するためにはこれらに対する検診と予防が必要です。地域との連携も重要です。当院ではHAPPINESS館での市民公開講座や健康相談を活用して、女性が自分の健康に関心を持ち、「自分の健康は自分で守る」町作りを目指しています。

埼玉医科大学病院の目標に「毛呂山の地に高齢者の理想郷を作る」がありますが、理想郷は与えられるものではなく、自分たちの手で作るものなのです。「いざとなったら医大に行けばなんとかなる」では

「健康で長生き」することはできないので、「普段から健康作りをしましょう。お手伝いしますよ」ということです。

■子宮脱から女性骨盤底医学へ

女性ヘルスケア外来のうち、私の属する女性骨盤底医学センターでは、子宮脱・膀胱瘤・直腸瘤など骨盤臓器の下垂や、それに伴う排尿困難・排便困難（いきんでも出ない）、失禁（尿や便の漏れ）などを扱っています。直ちに命にかかわることが少ない疾患ですが、生活の質を下げるので（「尿もれが気になって旅行に行けない」など）重要な問題です。婦人科は子宮脱を専門としていましたが、守備範囲が広がり、泌尿器科や消化器外科の協力を得て、現在は「女性骨盤底医学」という分野になっています。



■女性骨盤底医学センター長のコメント

将来的には、より全人的なケアのために、内科や整形外科との連携を強めていく予定です。

産婦人科 副診療部長
岡垣 竜吾
外来☎：049-276-1297



● **神経内科・脳卒中内科 教授 山元 敏正 (ヤマモト トシマサ)**

神経内科・脳卒中内科の診療内容についてご紹介いたします。当科に来院される患者さんは、頭痛、しびれ、めまい、ふるえ、運動麻痺、物忘れといった症状で直接来院される方が多いです。神経内科の専門領域としては、免疫疾患（多発性硬化症、重症筋無力症など）、変性疾患（パーキンソン病、アルツハイマー病など）、筋疾患（多発筋炎）、脳炎、髄膜炎、末梢神経障害など多岐にわたります。そして、もちろん脳梗塞患者さんも多数診療しており、年間200名前後の診療実績があります。

神経内科外来では、一般内科診療に加え神経内科領域の全ての疾患を対象としていますので、神経症状が疑われる患者さんは遠慮なくご紹介ください。また、専門外来としてとくに頭痛外来（荒木教授、山元教授、伊藤講師）、パーキンソン病外来（山元教授、高橋教授）、認知症外来（中里准教授、福岡講師）を開設しています。もし、診療でお困りのことがありましたらご紹介いただければ各専門家が診療して必ずお返事いたします。

診療部長のご挨拶

大学病院の神経内科は、認知症を呈する変性疾患や頭痛を主とする疾患を得意としていますが、多発性硬化症や重症筋無力症などの免疫疾患も積極的に診ており、あらゆる神経疾患に対応できます。医局員一同、患者さんには親切で丁寧な診察をするよう心掛けております。診断・治療にお困りの患者さんがおられましたら、お気軽にご紹介ください。先生方と一緒に地域医療の充実を図っていきたくと考えています。

神経内科・脳卒中内科 山元 敏正
外来☎：049-276-2034



診療科のご紹介

● **麻酔科 教授 長坂 浩 (ナガサカ ヒロシ)**

埼玉医科大学病院麻酔科は1972年に埼玉医大の設立と同時に設置されました。それ以来、手術室麻酔とペインクリニックを診療の主なフィールドとしてきました。最近では救急救命士の気管挿管等の教育も近隣の消防本部から委嘱されております。また、しばしば院内救急、周術期患者管理の依頼も診療各科から請け負っています。手術の麻酔につきましては「断らない診療」を合言葉に休日深夜早朝を問わず24時間体制で埼玉県の外科診療最後の砦の一翼

を担っています。ペインクリニックにつきましては今後さらなる充実を目指しています。多くの患者さんは痛みを抱えて埼玉医大病院を受診しておりますが、大学病院として多くのスペシャリストが在籍している特徴を生かして診療各科、他職種と連携した「痛み相談センター（仮称）」の運営に寄与する所存です。ペインクリニックとして、現在スタッフは米国留学等をしており、地域医療への貢献のみならず世界に発信できる診療体制の構築を目指しております。さらに地域の先生方からは手術室の麻酔科運営のコンサルテーションを賜っておりますが、徐々にスタッフが増えていますので何とかこの点でも地域医療に貢献したいと考えています。

診療部長のご挨拶

私は川越に生まれ、地元の高校、埼玉医科大学を卒業し、その後、小川赤十字病院、明海大学病院に勤務して数年前に母校に戻りました。1年半ほど疼痛研究で米国に居住した以外、主な活動範囲は生まれた場所から半径20kmを出たことはありません。文字通り埼玉の地元人間です。今後とも何卒ご指導のほどお願い申し上げます。

麻酔科 長坂 浩
外来☎：049-276-1306



● **耳鼻咽喉科 教授 上條 篤 (カミジョウ アツシ)**

2018年8月1日付けで、埼玉医科大学病院耳鼻咽喉科の教授として着任し、同時にアレルギーセンターにも所属となりました。2011年7月～2016年9月まで埼玉医科大学でお世話になっておりましたが、その後、一旦出身大学である山梨大学に戻り、埼玉での経験を活かし山梨大学のアレルギーセンターの設立に関わっておりました。この度は、再度埼玉に戻って来られて大変光栄に存じます。

私のコンセプトは手術のできる総合アレルギー科医です。アレルギー疾患であれば領域に関わらず治療いたします。手術は主に鼻科手術を担当しております。特に、気管支喘息を合併する好酸球性副鼻腔炎に対しては手術から術後の分子標的製剤(抗体製剤)の使用まで含めて治療管理しております。

また、重症の通年性アレルギー性鼻炎に対しては後鼻神経切断術とアレルギー免疫療法(皮下および舌下免疫療法)を組み合わせ治療を、重症鼻閉症例に対しては外鼻鼻中隔形成などを担当しております。今後は、若手医師の育成、地域における病診連携やアレルギー疾患の知識啓蒙などに尽力していきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



新任医師のご紹介

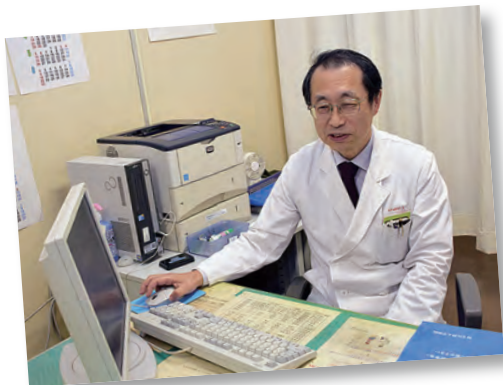
● **神経精神科・心療内科 教授 小田垣雄二 (オダガキ ユウジ)**

2018年10月1日付で埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科教授を拝命いたしました。私は1982年に金沢大学を卒業後、ただちに北海道大学精神医学教室に入局し、以後18年間を過ごしました。その後、ご縁をいただき、2000年に埼玉医科大学に異動して今日に至っております。

当地に赴任してすでに18年となり、これまでも

地域の医療関係者の皆様にはなにかにつけお世話になっております。特に、この数年は週2回の新患担当を務めていますので、近隣の診療所や病院の先生はもとより、遠くは荒川を超えた地域からも、多彩な患者様の御紹介をいただいております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

埼玉県は700万人を優に超える人口を抱えながら、相対的に総合病院の数が少なく、特に身体疾患と精神疾患が合併した場合の処遇には大きな課題を抱えています。また、同様の問題は、精神科の治療を受けている女性が妊婦となった場合などにも生じております。私はこれまで、特定の疾患に偏ることなく、精神医学がカバーするあらゆる領域の問題や疾患に対応してまいりました。今後とも、微力ながら地域医療の一端を担うとともに、連携医療が円滑に進むよう尽力してまいりますので、これまでも増してよろしくお願い申し上げます。



● **新任医師へ病院長からのエール**

平成30年8月1日付で耳鼻咽喉科に上條篤教授が赴任されました。上條先生は、以前耳鼻科准教授として勤務されましたが、この度出身校である山梨大学でのミッションが一段落したため、再び当院で勤務していただくことになりました。先生は、自己紹介にあるように、手術のできるアレルギー総合医という、貴重なスペシャリストです。当院は昨年3月に埼玉県からアレルギー疾患診療拠点病院の指定を受け、地域医療連携のみならず、県民への啓発活動や医療相談にも協力することが求められています。上條先生の赴任は、アレルギーセンターの活動をさらに活性化すると期待しています。

10月1日付で神経精神科・心療内科の小田垣雄二先生が、教授に昇格されました。小田垣先生は、臨床面では統合失調症、うつ病・うつ状態、神経症等の精神疾患一般を専門とし、研究面では精神神経薬理学・神経化学を専門として数々の研究業績があり、臨床精神神経薬理学会の専門医でもあります。これまでも地域医療連携には貢献してこられました。教授昇格を機にさらに皆様との連携を密にして地域のために役立つ精神科診療を実践して頂けるものと期待しております。



● **埼玉医科大学病院は、公益財団法人 日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審しました。**

当院は平成30年12月12・13・14日に公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審いたしました。受審は今回で4度目となります。前回は平成24年12月に受審しており、当初、平成29年12月に審査を受ける予定でしたが、機構より平成30年4月から運用を開始する新しい評価項目「一般病院3 < 3rd : Ver.2.0 >」への受審を勧められ、1年間の認定期間を延長ののち、この度受審となりました。

「一般病院3 < 3rd : Ver.2.0 >」は特定機能病院及び大学病院本院等を対象に新設され、高度医療に関する項目をはじめ、ガバナンスの仕組みと実践、高度医療技術の開発・評価、医療安全確保の取り組みなどへの厳しい基準の評価が行われます。

当日の審査では約90の評価項目に沿って、患者さん中心の医療や良質な診療・看護への取り組み、それを支援する部門が適切に機能しているか、病院の管理・運営体制などについて評価されました。

審査後、中間的な結果報告によっては改善報告を行った後に、認定を受けることとなります。



模擬審査風景



本審査風景

● **病院機能評価準備委員会 委員長 三村 俊英**

昨年末の病院機能評価「一般病院3」受審では、当日まで職員一丸となつての頑張りによって、審査最終日には比較的好意的な講評を戴く事が出来ました。実際の評価はどうなのか、現在は機構からの中間報告を待っています。当院は今後も、全ての患者さんに良質にして最適な医療を提供できるよう、改善を進めて参ります。なお、受審準備等で連携施設の先生方にはご迷惑をお掛けしたこともあったと思います。ご容赦下さい。右写真は、病院機能評価受審決起集会で職員と供に闘いの声をあげているところです。



● 看護部から

来院された皆様への情報発信の場「チョットメ講座」

病院に来院される皆様に本来の目的である検査や治療を受けるだけでなく、少しでも「情報」を持って帰って頂くことができないか…。外来や会計の待ち時間を有効活用していただけないか…。そんな思いで始まったのがチョットメ講座、通称「チョットメ講座」です。平成28年度に看護部の看護師長と主任のグループの企画から始まり、今年で3年目を迎えました。現在は看護師だけでなく薬剤師・検査技師・栄養士・臨床工学技士・理学療法士・放射線技師・医務部の職員等多くの職種が加わり、皆様にお役に立つ情報を提供する為に奮闘しております。今年度開催した講座は「食事アレルギーのお話し」「CT検査の素朴な疑問??」「冬に注意すべき感染症～インフルエンザを中心に～」等をテーマにし、いずれも100名以上の方にご参加いただきました。皆様からは「役に立つ内容で分かりやすい」「検査のことが詳しく聞けてよかった」「季節に合った情報が得られてよかった」等ご好評をい

ただいております。「チョットメ講座」は、本館1階の会計前で年に6回程開催しています。開催日時や内容につきましては、院内の掲示板へのポスター掲示の他、外来の呼び出し表示モニターにて案内しております。講座は30分程で気軽にご参加いただけるものとなっています。予約は不要で、どなたでもご参加いただけますので、どうぞ来院される患者さんやご家族にご案内いただけますようお願い申し上げます。



チョットメになる

チョットメ講座

1. 日時：平成30年11月15日(木) 10:30～
 2. 会場：本館1階 会計・薬剤部前
 3. 参加費：無料
 4. 講座内容：
 - 冬場に注意すべき感染症
 - ～インフルエンザを中心に～
- 講師：感染制御認定薬剤師
土谷真幹



地域医療連携室から

医療機関の皆様へ

地域医療連携室では、医療推進、機能分化に伴う集約的な窓口として、医療機関からのカルナ（インターネット予約システム）やFAX紹介による診療予約受付、外来担当医表の発送、などを行っています。

紹介元の先生方からの**患者紹介に関する問い合わせ（受診相談、転院相談等）**については、**直接該当科外来**へお電話をお願い致します。

連携医療機関からの各種問合せに関して迅速に対応させていただいております。また、紹介医療機関への報告書（お返事）が滞ることのないように、病院連携システムにて管理しております。未報告に關しては外来と連携をとり対応させていただきます。

患者さんをご紹介頂くにあたって

当院では地域の医療機関と、患者さんに一貫性のある適切な医療を提供するために相互が協力・緊密な医療提携を図ることを目的として提携医療機関・登録医制度を設けています。登録頂きカルナ（インターネット予約システム）をご利用頂きますとインターネットで診療及び検査の予約が行えます。

シンフォニーについて

埼玉医科大学病院は地域の先生方との顔の見えるきめ細かい情報交換を行い、さらに地域との連携を深めてまいりたいと考え、シンフォニー（紹介患者報告会）を2012年から毎年2回開催しております。

【シンフォニー】

紹介して下さった地域の先生方に、患者さんのその後の経過を主に診療科の特色等も交えながらのご報告会です。

地域医療連携室 049-276-1876

カルナ（インターネット予約システム）の利用

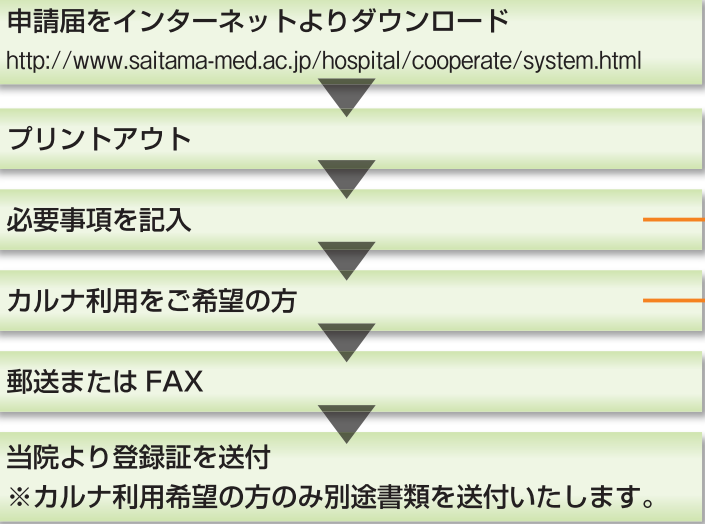
提携医療機関・登録医制度について

埼玉医科大学病院と地域の医療機関とで、患者に一貫性のある適切な医療を提供するために相互が協力・緊密な医療連携を図ります。

提携医療機関・登録医、カルナシステム利用について

1. 「提携医療機関・登録医申請届」を提出してください。

▶ カルナシステムを利用されたい方は、申請届を提出する際に申し出てください。



提携医療機関・登録医 申請届
 平成 年 月 日

埼玉医科大学病院
 病院長 織田 弘美 殿

私は、埼玉医科大学病院 病診連携システム（提携医療機関・登録医制度）の主旨に賛同し、登録申請いたします。

登録医師名 1 医療機関 1 名（理事長・院長・所長等を明記）

医療機関名
 診療科目名
 郵便番号
 医療機関所在地
 電話番号
 FAX 番号

カルナ希望 あり なし（どちらかに○をつけてください）

提携医療機関から

医療法人晃陽会 中村産婦人科（小川町）

当院は、1946年開業から比企郡小川町で、地域のお母さまとお子さまの健康と未来をともに考え歩んできたクリニックです。

産科領域では、順調に経過していても急な異常が出現し、発病後では、母体胎児に重篤な影響が出る事があります。近年、医療機材の進歩で、だいぶその予測がつくようになって来ました。

当院では、カルナシステムを通じ、患者さまの自覚症状が出る前に大学病院（周産期センター）の先生に引き継ぐ事で、良好な結果を得られております。カルナシステムを利用すると、患者さまの目の前で一緒に受診日時を決められるので、自覚症状のない患者さまであっても良好な受診コンプライアンスが得られ、非常に受診動機付けという点において、有用なシステムと日々感じ診療にあたっております。

院長：中村晃和



医療機関情報

診療科目：産科・婦人科・小児科・内科

診療時間：午前 8:30～午後 0:00

午後 2:30～午後 6:00

（土曜は午後 5:00 まで）

休診日：日曜・祝日



2-1. 患者紹介（外来診療予約）について

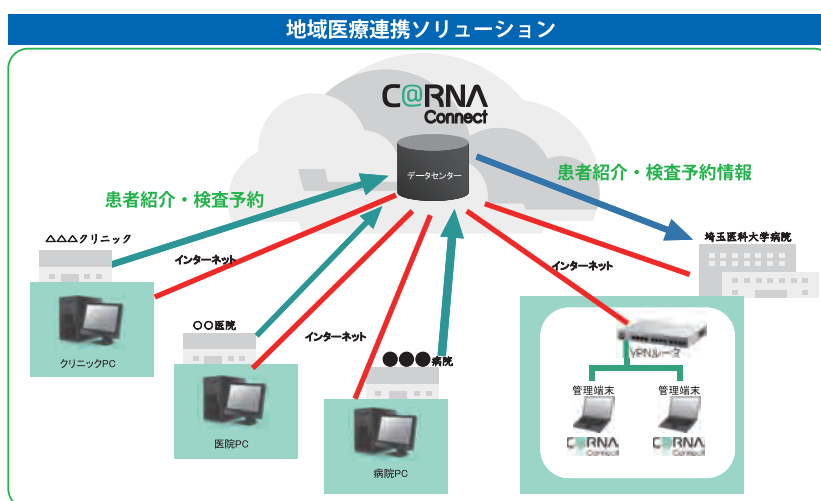
- ① カルナシステムでは、指定の予約枠に入力していただくことで、予約が取得できます。
- ② 患者さんは医務課での初診受付は必要なく、直接診療科外来で受け付け、お待ちいただけます。

2-2. 特定の検査の依頼について

- ▶ カルナでは、CT 検査、MRI 検査、アイソトープ検査、骨シンチ、心エコー検査、腹部エコー検査などの検査もご利用できます。
- 検査終了後すみやかに、専門医の読影報告書を送付いたします。

2-3. 受診報告について

- ▶ 紹介患者さんが受診後には、報告書を送付させていただきます。



小川赤十字病院（小川町）

当院では、専門性や緊急性により、他の医療機関への搬送が必要な場合、多くを埼玉医科大学病院にお世話になっております。それ以外でも、各診療科から依頼がある都度、カルナシステムを利用しております。予約枠の空きが一目でわかること、何時でも予約を取れること、また、診療案内予約と埼玉医科大学病院の地図が印刷できるので、不安なく患者さんをご紹介することができます。現在はカルナシステムで予約を取れる先生が限られているため、枠を広げていただくと更に活用し易くなると感じております。

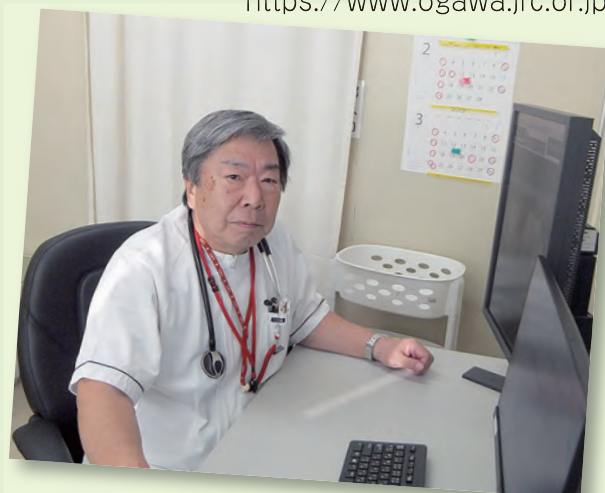
院長：森本義博



医療機関情報

診療時間：平日：午前 8:30 から正午
 第 1 土曜日、第 3 土曜日：午前 8:30 から午前 11:30
 ※診療科により診療時間が異なるため、詳しくはホームページをご覧ください。

<https://www.ogawa.jrc.or.jp>



埼玉医科大学 建学の理念

- 第1. 生命への深い愛情と理解と奉仕に生きる
すぐれた実地臨床医家の育成
- 第2. 自らが考え、求め、努め、以て自らの成長
を主体的に開展し得る人間の育成
- 第3. 師弟同行の学風の育成

埼玉医科大学の期待する医療人像

高い倫理観と人間性の涵養
国際水準の医学・医療の実践
社会的視点に立った調和と協力

埼玉医科大学病院の基本理念

当院は、すべての病める人に、満足度の高い医療を行うよう努めます。

病院の基本方針

1. すべての病める人々にまごころをもって臨みます。
2. 安心で質の高い医療を実践します。
3. まわりの医療機関と協力し合います。
4. 高い技能を持つ心豊かな人材を育成します。
5. より幸せとなる医療を求めた研究を推進します。

患者さんの権利

当院は、すべての患者さんには、以下の権利があるものと考えます。

これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. ひとりひとりが大切にされる権利
2. 安心で質の高い医療を受ける権利
3. ご自分の希望を述べる権利
4. 納得できるまで説明を聞く権利
5. 医療内容をご自分で決める権利
6. プライバシーが守られる権利

小児患者さんの権利

当院は、すべての小児の患者さんには、以下の権利があるものと考えます。

これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. こどもが最善の治療を受けて生きる権利
2. こどもが暴力から守られる権利
3. こどもが能力を十分に伸ばせるような医療を受ける権利
4. こどもが自分の診療について自由に意見を述べる権利

連携医療機関からの各種問い合わせ

救急センター・中毒センター：049-276-1199
地域医療連携室（カルナ・FAX 紹介）：049-276-1876
番号案内：049-276-1111

医療福祉相談室（退院調整）：049-276-2119
セカンドオピニオン受付：049-276-1121



埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース（5号）

発行：埼玉医科大学病院
発行責任者：織田 弘美
編集：埼玉医科大学病院広報戦略委員会
編集責任者：篠塚 望
電話：049-276-1876 地域医療連携室
住所：埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38
発行日：2019年1月1日

※掲載している写真等は、関係者の同意を得ています。